

プレミアム＊スクール 2026 Premium SCHOOL

淑徳小学校

人とのつながりが育む
未来への学び



淑徳小学校
Shukutoku Elementary School
<https://www.es.shukutoku.ac.jp>
〒174-8588 東京都板橋区前野町5-3-7
TEL:03-5392-8866

プレミアム＊スクール 2026
Premium
SCHOOL

プレミアムスクール
2026

制作
株式会社ダイヤモンド・グラフィック社
03-5226-7308

株式会社 **ダイヤモンド・グラフィック社**



田中尊則校長



顕微鏡は1人1台使用できるように、1クラス分40台用意されている

淑徳小学校



教育理念

大乘仏教精神に基づく「共生」の理念を実践する「三つの心」(感謝する心、いつくしみの心、創造する心)をもつ児童を育成する。

見えない変化に、目をこらす 一人ひとりの「わかった」が育つ 理科室から始まる学び

見えない変化を確かめる授業

『「とける」という言葉、漢字ではどう書くか知っていますか』



細川先生による5年生理科の「もののとけ方」を学ぶ実験の授業

5年生の理科の授業は、細川雅史先生のそんな問いかけから始まった。小学校理科で「もののとけ方」を学ぶ単元の一場面である。先生が掲げるボードには「溶ける」「解ける」「融ける」と三つの漢字が並ぶ。同じ「とける」でも意味によって漢字が変わる。

「今日は、さんずい」の『溶ける』に注目しましょう。水の中でいったい何が起きているのか、実験で確かめていきましょう。実験という言葉聞いた瞬間、子どもたちの背筋がすっと伸びる。この日の実験は、大きく三つの段階で組み立てられている。

まずは、塩を水に入れてかき混ぜ、「水に入れるとどうなるのか」を自分の目で確かめる。次に、塩を包んだ紙玉を

入れたことがあり、その言葉がいまも心に残っています。細川先生は大学院で「理科嫌いを減らすための取り組み」をテーマに研究を重ね、その知見を現場で実践してきた。一人一つずつの実験器具や、観察を重視した授業の組み立て、テンポの良い進行。理科を「わからないまま終わらせない」ための工夫が、授業の随所に凝らされている。

顕微鏡を使って、植物の細胞や身近な生き物のつくりを観察することもある。見たものを「精密スケッチ」として記録させることもあり、小学校のレベルを超えるような、細かく正確な表現に挑戦する。図工が好きな子も多いこの学校では、驚くほど精密なスケッチを目にすることもあるという。

「細かく観察する力、読み取る力、集中力。そういうものが鍛えられます。それは算数のデータ分析にもつながるし、社会の資料を読み解く力にもつながる。理科という教科は、いろんな科目と融合しているんです」

担任として19年、理科の専科教員として10年。算数や国語、社会も教えてきた経験を持つ細川先生だからこそ、教科の「つながり」を意識した授業が展開されている。

穏やかな空気の中で育まれる関係性

授業が進むにつれ、教室のあちこちから「すごい」「なんで?」という声が自然にこぼれていた。

淑徳小学校の子どもたちからは、一

水に浸し、かき混ぜずに観察することで、「水の中で何が起きているのか」をじっくり追う。そして最後に、入浴剤を使った実験を通して、「物質が変わっても、同じことが起きるのか」を比べていく。子どもたちは一人一個のビーカーに水をくみ、葉さじで塩をすくって静かに落としていく。白い粉が水の中に沈み、かき混ぜるうちに少しずつ見えなくなっていく。「溶けてる」「まだ少し残ってる」。そんな声があちこちから聞こえてくる。

続いて、塩を包んだ小さな紙玉を水に吊るす実験へ。玉が水に触れた瞬間、白いもやがゆらゆらと流れ出した。「によりよるしてる」「どうして溶けるんだらう」。子どもたちはビーカーに顔を近づけ、その変化を見つめている。ただ溶かして終わるのではなく、条件を変えながら確かめることで、子どもたちは「見えなくなった」なくなったわけではない」ということに気づいている。目に見えない変化を、観察と比較によってとらえる。そうした積み重ね

見穏やかで素直な印象を受けるが、勉強に対する意識が高い一方で、元気で活発な子が多い。また、「人は人、自分は自分」というように、お互いを尊重して干渉し過ぎない空気がありながら、困ったときはみんなで協力しようという雰囲気もできあがっている。

日常に根づく、静かな習慣

毎朝、子どもたちは教室に掲示された阿弥陀様の写真に向かって合掌し、「今日も一日、よい子でありますようにわたくしたちをお守りください」と誓いの言葉を述べる。給食の前には「いただきます」、終わりに「ごちそうさまでした」と手を合わせる。そうした所作が日常の中にとけ込んでいる。

「クラスの宝物」という取り組みも特徴的だ。新年度のはじめに各クラスで決めたスローガンに沿って、子どもたちは友だちにしてもらってうれしかったこと、感謝したことを付箋などに書いて貼っていく。小さな付箋が少しずつ増えて、1年後には満開の花が咲くような掲示物ができあがる。

「相手のいやなところではなく、いいところに目を向ける。自分がしてもらってうれしかったことを、今度は自分がしてあげようと思う。そういう素養が自然と身についていきます」と田中校長は語る。

「いじめやけんかが起こらないとは言いきれません。集団ですから、そうしたことは起こります。ただ、何かあったときはすぐに対応する。担任だけが

が、次の学びへとつながっていく。

120人分の「自分だけの実験」

「本校は1クラス40人程度いるので3クラスで約120人。今日使った実験セットも、児童の人数分用意しています」

授業を終えたあと、細川先生は「一人ひとりがきちんと手を動かして確かめられるように、実験器具は全員分用意しています。観察の時間を十分に取ることも大切です」と話す。実際に、ビーカーは人数分あるが、塩を包んだ紙玉は一つひとつ手作業で準備した。キッチンペーパーに塩を包み、輪ゴムでとめて、てるてる坊主のような形に仕上げる。それを120個。さらに、色の変化を見せるための入浴剤を使った玉も同じ数だけ作った。

理科室には顕微鏡が40台そろい、一人一台で観察できる環境が整っている。

「理科は、実際に見て、確かめて、『わかった』と自分で納得できたときに、初めておもしろくなる教科だと思うん



子どもたちは毎朝、阿弥陀様に向かって合掌して誓いの言葉を述べる

なく、学年主任や主幹教諭も一緒になって動きます。一人で抱え込まず、チームで関わる。そうした積み重ねが、子どもたちが安心して学べる環境につながっていると考えています」

安心を土台にした挑戦

6年生の多くは中学受験に挑む。学校の授業を軸に、受験に必要な学力を身につけていく体制だ。系列校への内部選考試験制度もあり、合格した場合はその権利を保持したまま外部受験に挑戦できる。進路についても、子ども一人ひとりの性格や適性を見ながら、無理のない選択を一緒に考えている。

安心できる環境の中で、学ぶことを嫌にならず、自分なりに考え続ける。その積み重ねが、次の一歩へ踏み出す力になる。淑徳小学校では、そんな日常の中で、子どもたちの人間力が今日もていねいに育まれている。

SCHOOL DATA

■最寄駅

東武東上線「ときわ台駅」北口スクールバス10分/JR線「赤羽駅」西口スクールバス20分/都営三田線「志村坂上駅」スクールバス5分/西武池袋線「練馬高野台駅」スクールバス30分/都営大江戸線「練馬春日町駅」スクールバス20分/東京メトロ有楽町線・副都心線「平和台駅」スクールバス15分

■学校説明会

5月16日(土)、6月5日(金)、9月5日(土)

■公開行事

公開授業6月5日(金) 学校説明会同日開催/学校施設見学会7月25日(土)/年長児対象体験授業7月11日(土)/年中児対象体験授業12月12日(土)

設立年	1949年(昭和24年)
学制	共学(男女比約1:1)
系列校	淑徳中学高等学校、淑徳巣鴨中学高等学校、淑徳与野中学高等学校、淑徳幼稚園、淑徳与野幼稚園、淑徳大学・大学院
児童数	661名(男子298名、女子363名)
昼食	完全給食
放課後	自校が運営する「淑徳アルファ」
プログラム	あり

詳細はHPをご覧ください。

